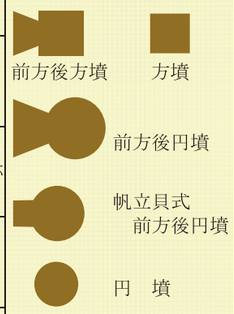
古墳時代を中心とした年表

西　暦	時　　代		日本の遺跡・できごと	名取の古墳・遺跡
BC400～	弥生時代		吉野ヶ里遺跡(佐賀)	泉遺跡
250～ (3世紀後半)	古墳時代	前　期	(邪馬台国の女王卑弥呼没:248年) 箸墓古墳(奈良)	
300～ (4世紀)			桜井茶臼山古墳(奈良) 会津大塚山古墳(福島) 遠見塚古墳(宮城)	五郎市遺跡方形周溝墓 飯野坂古墳群　　十三塚遺跡 雷神山古墳・小塚古墳
400～ (5世紀)		中　期	誉田御廟山古墳(応神天皇陵:大阪) 大仙古墳(仁徳天皇陵:大阪)	名取大塚山古墳　前野田東遺跡 経の塚古墳・塚根塚古墳
500～ (6世紀)		後　期	古墳の小規模化　群集墳の盛行 仏教の伝来 横穴式石室の普及	賽ノ窪古墳群
600～ (7世紀)	(飛鳥時代)	終末期	法隆寺(奈良) 高松塚古墳(奈良)	山囲古墳 熊野堂横穴墓群
710～	奈良時代		平城京(奈良)　　多賀城(宮城)	前野田東遺跡

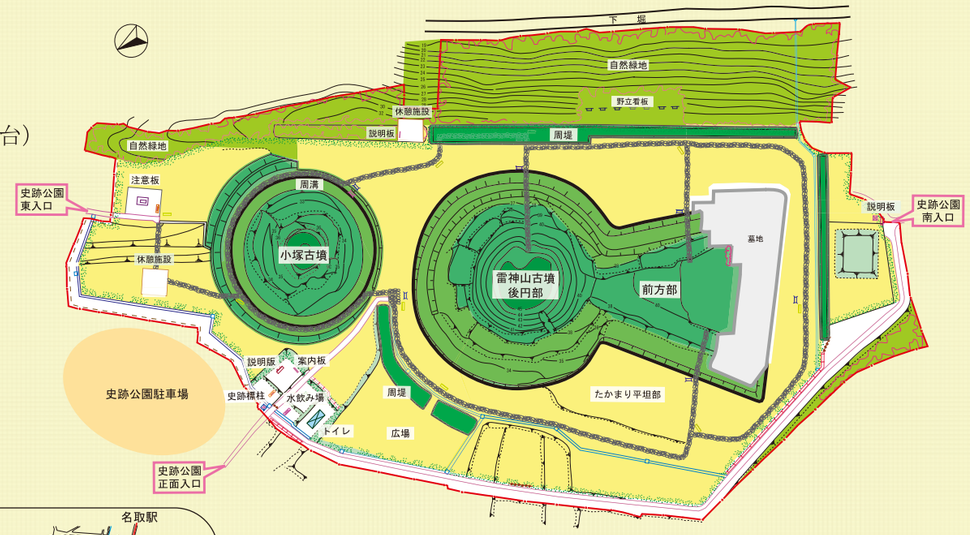
古墳の形



ご案内

◎施設案内

・駐車場
（大型４台、
普通車 37 台）
・トイレあり
（男女別、
多目的）



◎交通案内

・JR 館腰駅から約 1.5 km
・JR 名取駅から約3km
・バス（なとりん号　館腰植松線）
館腰小学校停留所から徒歩約 12 ～ 15 分
（館腰駅前から館腰小学校停留所まではバスで約3分、名取駅前から館腰小学校停留所まではバスで約 20 分）

◎お願い

史跡雷神山古墳は貴重な文化財です。
みなさんで大切にしましょう。
・ゴミは各自お持ち帰りください。
・芝生を傷める行為は慎みましょう。

発　行　名取市教育委員会
発行日　令和５年３月

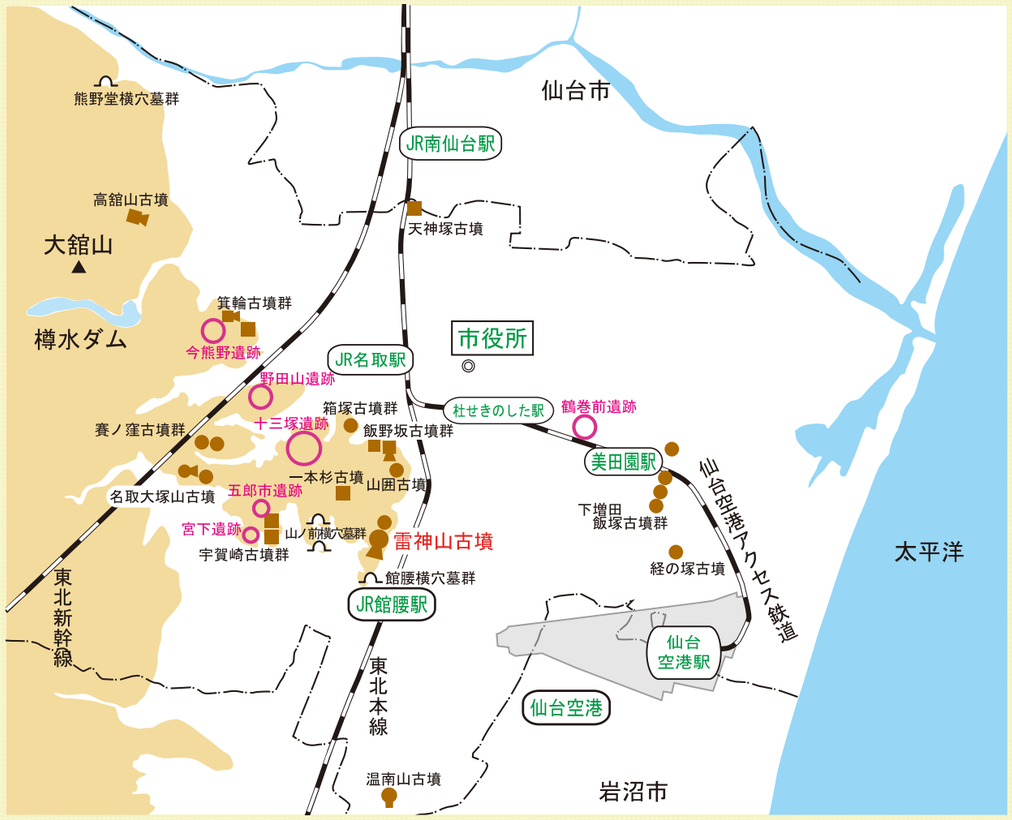
国指定史跡

雷神山古墳

東北地方最大の前方後円墳

雷神山古墳（らいじんやまこふん）は、東北地方では最大の前方後円墳です。造られた時代は古墳時代でも古い時期（前期：４世紀）にあたり、その時期の古墳の中では、東日本でも最大級の古墳です。

葬られた人物は近畿地方のヤマト王権と強い関係をもち、名取を中心に広い地域を治めていた有力な首長とみられます。その頃の政治の動きや社会のようすを知る上でとても貴重な古墳であり、近くにある円墳の小塚古墳（こづかこふん）とともに、昭和 31 年（1956）に国の史跡に指定されました。



古墳のあるところ

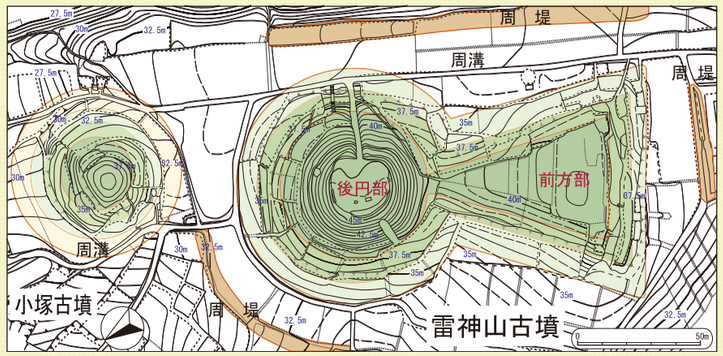
雷神山古墳はJR名取駅から南におよそ2.5㎞の、植松字山と愛島小豆島字片平山にあります。名取市の南西部には、西側の丘陵から続く標高 40mほどの低い丘が東の方に大きく張り出しています。古墳はその丘の東の縁に造られており、そこから東側に広がる平地（名取平野）を大きく見下ろすことができます。これらの低い丘や東側の平地には国の史跡である飯野坂古墳群、賽ノ窪古墳群などのような大小の古墳が数多く分布し、名取市は宮城県内でも古墳の密集地の一つとして知られています。また、十三塚遺跡をはじめ古墳時代のムラのあとも多く見つかっていますが、雷神山古墳に葬られた首長の住まいについてはまだわかっていません。

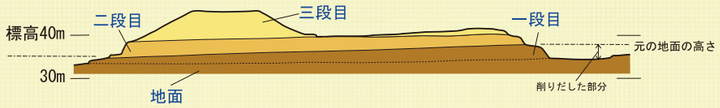
雷神山古墳の特徴

形と大きさ　雷神山古墳は円形と台形を組合わせた「前方後円墳」という形をしています。そのまわりには土を掘り上げたあとを平らにした周溝（堀）や、さらに外側には土手のような周堤が見られます。大きさは全長が168m、後円部の直径が 96mで高さ 12m、前方部の長さが 72m、幅が 96mで高さは 6mです。後円部の直径と前方部の幅が同じことなどから、古墳は一定の規格で造られていることがうかがわれます。

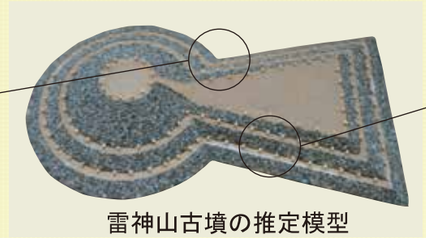
雷神山古墳のあゆみ

古墳は小塚古墳とともに、昭和の初めに「植松丘上主古墳、植松丘上副古墳」として初めて学会に紹介されました。戦後に行われた測量調査により東北最大の前方後円墳であることがわかり、その後、一般に知られるようになりました。雷神山古墳という名前は、古墳の頂上に雷神様のほこらが祀ってあったことに由来しています。



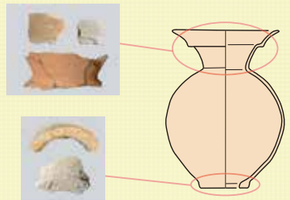


造り方　古墳は三段に築かれています。一段目はもともとの高まりを削りだして造られ、その上に土を積み上げて二段目、三段目が造られています。その斜面には葺石（表面の飾りや土留めのための石）が敷きつめられ、壺形埴輪がたて並べられていたようです。古墳後円部の上部には死者の埋葬施設があると思われますが、未調査のためわかっていません。


雷神山古墳の推定模型

調査で見つかったもの　これまで土師器の器台や壺などの土器の他に、壺形埴輪が見つかっています。土師器の壺は焼く前に底に穴をあけた「底部穿孔土器」と呼ばれるもので、初めから古墳用に作られたものとみられます。この土器と形はよく似ていますが、大きさや作り方などがちがい、円筒埴輪につながるような特徴をもつ壺形埴輪も出土しています。

出土した土師器は、古墳時代前期の4世紀後半頃の特徴をもつもので、壺形埴輪も4世紀代の各地の古墳からよく発見されるものです。雷神山古墳の造られた年代を4世紀後半とする大きな根拠となっています。



小塚古墳の特徴

小塚古墳は雷神山古墳の北側にある直径が 54m、高さが 6m の円墳です。雷神山古墳と同じく三段に築かれ、一段目は地山を削りだし、その上は土を積んで造られています。古墳のまわりには周溝（堀）と周堤が見られます。葺石はありませんが、壺形埴輪と似た土器が見つかっています。円墳としては東北地方でも最大級であり、雷神山古墳に葬られた人物と関係の深い有力者の墓ではないかと考えられています。

国史跡　飯野坂古墳群

雷神山古墳から北に約 1 ㎞離れた同じ丘の上に位置する、全長が 40 ～ 60m の前方後方墳5基と方墳2基が並ぶように分布する古墳群です。未調査のために詳しいことはわかっていませんが、古墳の特徴や発見されている遺物などから古墳時代前期に造られ、多くは雷神山古墳に先立つ代々の首長たちの墓で、その後を受けついだのが雷神山古墳の首長だったのではないかとも考えられています。